平成２７年度　研究の概要

１　研究主題

「学習指導と評価に関する研究」（５年次）
～言語活動の充実を図った学習指導と新しい評価の実践事例の収集を通して～

２　主題の意味

（１）学習指導とは

学習指導とは学習者の学習を援助し促進する教師の営みであり、学習者の知識・理解・技能・思考・表現等の能力、及び学習意欲・態度を能率的・効果的に学習が行われるようにする教育活動である。今回の学習指導要領の改訂では基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならないとしている。このことから本主題の学習指導とは、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身につけさせるとともに、国語科では、言語能力を培い、他の教科においては、思考力・判断力・表現力等を育成するための手立てとして言語活動を充実させる教師の能率的・効果的な教育活動を指す。

（２）評価とは

評価は、子どもの学習状況を知り、学習目標の設定や指導方法の工夫などの改善に役立てるためのデータを得る活動である。今回の学習指導要領の改訂により、評価の観点が変更され、「技能・表現」が「技能」となり、「思考・判断」が「思考・判断・表現」となった。これは、言語活動の充実を図り、基礎的・基本的な知識・技能を活用して思考力、判断力、表現力を高める学習指導が重視された結果に他ならない。新しく設定された観点である「技能」は、教科内容としての表現力をこれまで通り評価することになる。一方、「思考・判断・表現」で示された表現は、これまでの「技能・表現」で示されていた表現とは異なり、「思考・判断」したことの過程や内容がわかるように言語で表現するものである。そのため、学習指導において言語活動の充実が図られているわけである。よってこれからの評価は、思考力、判断力、表現力を評価することが重視されることとなる。つまり、本主題の評価も思考力、判断力、表現力を第一義に児童生徒の能力を見取り、計画・指導・評価・改善を有機的に結びつけることを指す。

（３）学習指導と評価に関する研究とは

思考力・判断力・表現力を育むための、基礎的・基本的な知識及び技能を活用する学習指導のあり方、及びそれらの力が身に付いたかどうかを見取る新しい評価について、各教科等部会ごとに教育実践研究を行い、各教科の特性及び田川郡の実態に応じた指導と評価のあり方について究明することを指す。

３　主題設定の理由

（１）社会の要請と教育改革の動向から

知識基盤、グローバル社会化など社会が急速に変化し価値観が多様化する現代、次代を担う子どもたちには、幅広い知識と柔軟な思考に基づき判断することや異なる文化や歴史や立場にある人々と尊重し合って共存していくことなど、変化に対応し問題をより

よく解決する能力が一層求められている。

しかし、ＯＥＣＤのＰＩＳＡ調査、全国学力・学習状況調査など国内外の各種学力調査結果によると、我が国の子どもたちの課題として、思考力・判断力・表現力等が十分に身に付いていないことがあげられている。

これらの状況を踏まえ、中央教育審議会で審議・答申が重ねて行われた。そして教育基本法、学校教育法が改正される中、小学校において平成２３年度から、中学校においては２４年度から新学習指導要領が完全実施された。新学習指導要領は、子どもたちの現状に鑑み「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」等の「生きる力」を育むという理念を中核にすえたものであり、とりわけ「確かな学力」については、基礎的な知識や技能を習得させるとともに、知識技能を活用した思考力・判断力・表現力を育成しながら学習に取り組む意欲を養うことを重視するという、バランスのとれた学力の育成をめざしたものになっている。特に改訂にあたって充実すべき重要事項の第１番目として「言語活動の充実」があげられ、各教科を貫く改善の視点として示された。

以上のようなことから、各教室において展開される学習指導においては、子どもたちの思考力・判断力・表現力を育成すべく言語活動を充実させるとともに、それらが確実に身に付いたかどうかを見取る学習評価の充実が図られなければならない。

（２）田川郡の児童生徒を取り巻く状況から

平成２３年５月、故山本作兵衛氏の描いた炭坑記録画がユネスコの世界記憶遺産に登録されたことは、田川に明るいニュースとなった。しかし、エネルギー革命による炭鉱閉山の嵐から半世紀経とうとしているが、その時の生活環境の激変は今でも田川の児童生徒に多くの面で影響を及ぼしている。

本郡の状況を見ると、経済的に厳しい状況にある家庭が依然として多いこと、基本的生活習慣が定着しにくいこと、将来への肯定的な展望をもちにくく不登校が増えていることなどの課題が挙げられ、依然、子どもたちの学力の向上と進路の保障が大きな課題とされている。

全国学力・学習状況調査の結果を見ると、徐々に改善は見られるものの依然全国平均よりもかなり低い数値であり、特に思考力・判断力・表現力を問うＢ問題でポイント差は顕著である。

したがって、子どもたちの学力向上と進路保障を実現するためには、基礎的・基本的な知識技能を確実に習得させるとともに、知識技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を高める教育実践研究が喫緊の課題である。

（３）これまでの研究の経過から

当研究所では、平成１０年度から平成１４年度まで、「生きる力」の育成に向けて研究を積み重ねてきた。これらの研究は、授業づくりや評価活動、子どもたちの学力の向上、田川郡の教育のあり方の改善に一定の成果をあげた。

これらの研究を基礎に、平成１５年度から平成１７年度までの３年間、学力実態及び学力向上に関する調査・研究に取り組んできた。調査の結果では、郡内全体の平均点は依然として小中学校とも全国平均を下回っているという実態であった。

学力実態と学力向上に関する調査・研究を受け、平成１８年度から２２年度まで「学力向上の取り組みに関する研究」という主題に基づいて、一人一人の子どもに「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を身につけるためにバランスのとれた教育を実施することにより、真に「生きる力」を育成する実践研究に取り組んできた。実施のあり方

として、小中学校校長会主催による教科等部会と連携し、各教科・領域部会において学力分析を行い、子どもの実態把握の上に実践研究を進めてきた。

年　　度	研　　究　　主　　題
平成１０～１１年度	「生きる力」を育む授業づくり
平成１２～１３年度	「生きる力」を育てる総合的な学習
平成１４年度	「生きる力」を育てる教育課程の展開 ～評価活動の充実をとおして～
平成１５～１７年度	学力実態及び学力向上の取組に関する調査・研究 ～学力検査結果の分析と実践事例の収集を通して～
平成１８～２２年度	学力向上の取り組みに関する研究 ～生きる力を身につけた児童生徒の育成～
平成２３年度～	学習指導と評価に関する研究 ～言語活動の充実を図った学習指導と 新しい評価の実践事例の収集を通して～

４　研究の目標

各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動において、新学習指導要領がめざす確かな学力を身につけるための学習指導と評価方法について究明する。

５　研究の内容

（１）各教科・領域等の学力や児童生徒の実態を分析する。
（２）各教科・領域等における主題を設定する。
（３）各教科・領域等における主題を達成すべき学習指導と評価方法を明らかにする。
（４）各教科・領域等において主題に基づいた研究実践を行う。
（５）各教科・領域等において実践事例としてまとめ、成果と課題を明らかにする。

６　研究仮説

各教科、領域等において下記のような手立てをとり、言語活動の充実を図った学習指導と新しい評価を位置付けた実践研究を進めていけば、児童・生徒は新学習指導要領がめざす確かな学力を身につけることができるであろう。

（１）田川郡教育研究所と郡小・中学校校長会が連携し、各教科等部会を組織し、教職員が希望する教科等の理論や指導技術を磨く場を設定する。
（２）各教科等部会において、当該教科等における学力や児童生徒の実態や課題を明確にし、以下のように学習指導を工夫し、評価を位置づける。
　①指導方法（思考・判断・表現の具体化に基づいた言語活動の位置付け）
　②評価の位置づけ（評価基準の設定、評価方法の工夫）

７　研究の方法

（１）研究の組織
①研究所員研修会
ア　構成　所長１名、副所長２名（小・中学校校長より各１名）、幹事１名（副所長１名が兼任）、書記１名、主任指導員２名（小・中学校教頭より各１名）、

指導員４名（小・中学校主幹教諭より各２名）

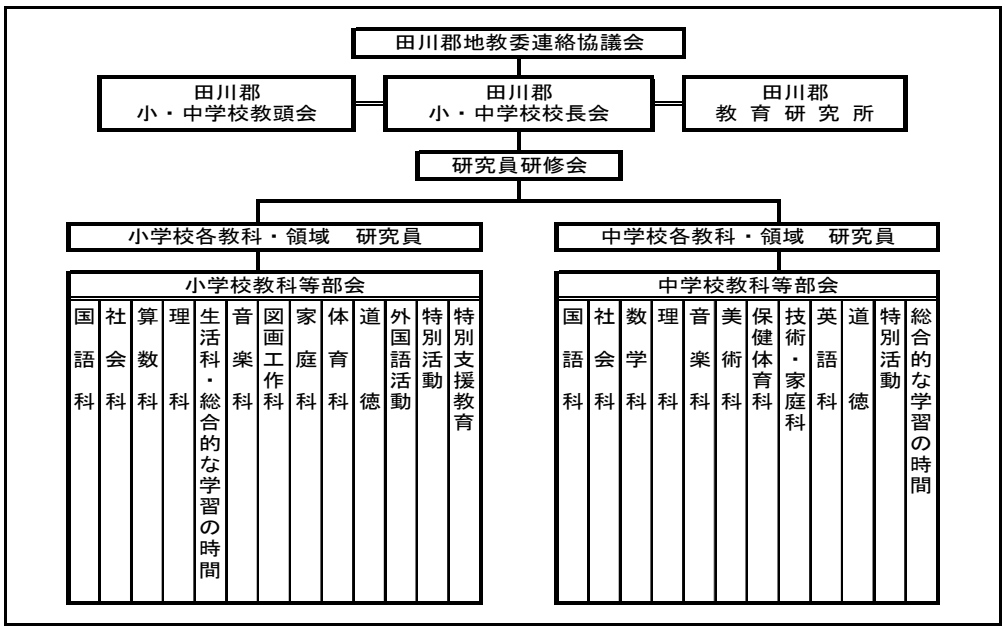
イ　役割　研究主題や研究構想の設定、研究の年次計画の立案等、研究推進の中核となる。主題にかかわる理論研究、実態調査等をもとに研究の見通しを設定し、授業設計の方向を示す。研究員との連携を図り、実証の援助を行う。

②研究員研修会

ア　構成　研究所所員、研究員（小・中学校各教科等部会の代表）

イ　役割　教科の独自性を生かしながら、研究主題に基づいた指導内容・方法についての情報交換や協議を行い、課題解決に向けて計画立案し推進する。

③研究の組織図



（２）研究の計画

①１年次

ア　研究主題の設定

イ　主題に基づく理論研究

ウ　実践研究（各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動）

◇授業計画　　◇検証授業　　◇考察・まとめ

エ　研究のまとめ

オ　研究紀要の作成

②２年次・３年次・４年次・５年次

ア　研究主題・副主題の検討

イ　主題に基づく理論研究

ウ　実践研究（各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動）

◇授業計画　　◇検証授業　　◇考察・まとめ

エ　研究のまとめ

オ　研究紀要の作成

８　研究員の役割

研究実践の中核となる。教科等部会での理論研究・実態調査をもとに研究仮説を設定、授業を通してデータの収集・分析を行い、研究主題の解明にあたる。